

医療の未来をつくる全国からの声

診療所探訪



“常に患者様のそばに” という思いを法人名に込めて

2012年7月取材

青森県弘前市
ESTクリニックグループ 最高経営責任者

医学博士 角田 悟 先生

医療法人社団クローズ・トゥ・ユーは、総合診療科、外科、内科、人工透析、泌尿器科、眼科、整形外科を持つESTクリニックと、皮膚科外来が中心のEST2クリニックを運営。総合診療科を中心に各専門科の連携によるプライマリ・ケアを実践しています。

“いつもあなたのそばにいるよ”

日本の医療法人の名称はほとんどが漢字の『〇〇会』である中、『クローズ・トゥ・ユー』という名前はかなり異色です。命名の由来を、ESTクリニックグループの最高経営責任者である角田悟先生はこう語ります。「我々の医療理念を表し、患者様にきちんと意味が伝わる名前にしたかったのです」。「ユー」とはもちろん、患者様のこと。そして、常に患者様のそばにいて安心してもらえる存在でありたい——これがグループの理念です。



玄関ホールの天井で患者様を出迎える、有名な工芸家の手によるステンドグラス。

“4C”をキーワードにスタート



待合ホールは明るくゆったりしており、患者様がくつろげる空間としました。

角田先生が開業を決意したきっかけは、当時の弘前市の救急医療体制に不安を覚えたからでした。「救急は輪番制でしたが、例えば他医で加療されている方が急変し救急車で運ばれてきたときには、緊急の処置を施しながら、その一方で、採血して基礎疾患を調べなければなりません。急を要する状況に際し、医療情報の共有のために本来行われるべき情報開示が不十分であったからです。こういった一連の経緯から、友人から相談されてもどの病院に行けばよいという的確なアドバイスができないことにストレスを感じ、それなら自分でやっておこう、と思ったのです」。(ちなみにESTクリニック内科では、毎回カルテコピーをお渡しし、また検査を行っている患者様には検査結果も書面でお渡ししています。これは万が一、旅行中などに急変したり、事故に遭われるなどアクシデントがあった時、「ひとりひとりがより早急に的確な治療を受けられるように」として開示しています。)

33歳で決意するやいなや、まずは仲間探しに奔走します。「レベルの高い医療スキルを持ち、志を共有してくれる医師を求めて100人以上と会いました」と角田先生。そして2004年、6名の各科専門医による19床のクリニックがスタートしました。実現すべき目標は、Cure(治療)、Care(予防)、Communication(医療スタッフと患者様の意志疎通)、Comfort(患者様に快適な環境の提供)の“4つのC”です。

最新の医療が必ずしも善行とはいえない

このような高い理想の下で診療活動を展開する同クリニックの評判は、開業直後から地域に広がり、多くの患者様を集めることになりました。もちろん角田先生も経営者としてだけでなく、内科医として外来診療に忙しい日々を送り、それは現在も続いています。その際にモットーとしているのは、一人一人の患者様に最適な医療を施すこと。それは医学的な意味だけではありません。角田先生は言います。「例えば、いくら良い薬があっても、高額だと使えない患者様もおられるので、病態だけでなく経済面などの患者背景も話し合い、その上で最もQOLが上がるような治療法を選択するようにしています。患者様のあらゆる事情を考慮すること——この姿勢こそがまさに、『クローズ・トゥ・ユー』なのです。定期的に通院されている患者様の飼い猫の名前も知っていますよ(笑)」。



「法人名は、患者様に寄り添うという意味で、『アイ・ラブ・ユー』も考えたのですが、最終的に『クローズ・トゥ・ユー』で落ち着きました」と角田先生。